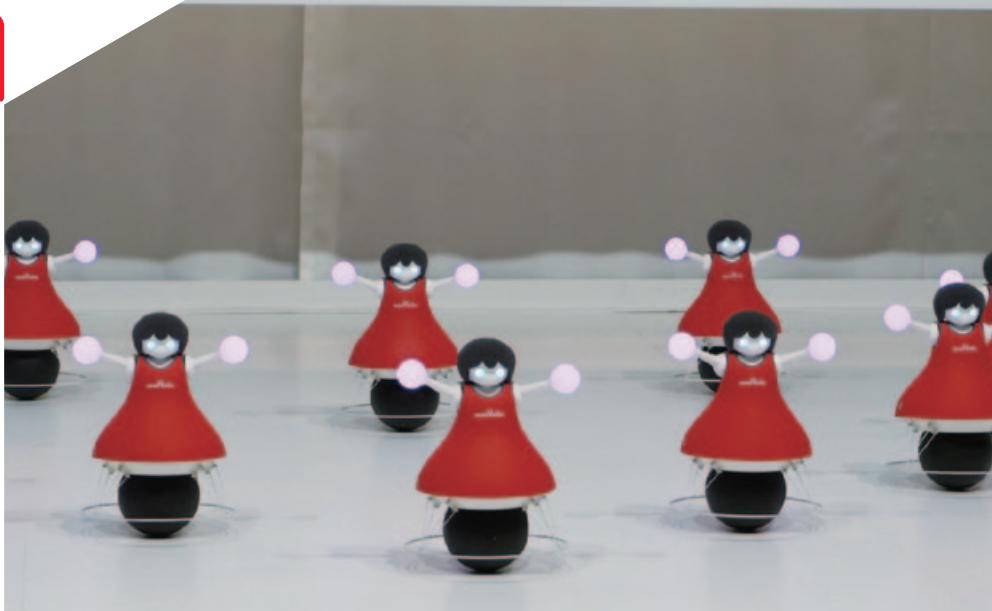


株主の皆様へ
第80期 中間報告書

平成27年4月1日 ▶ 平成27年9月30日

株式会社 **村田製作所**

証券コード：6981

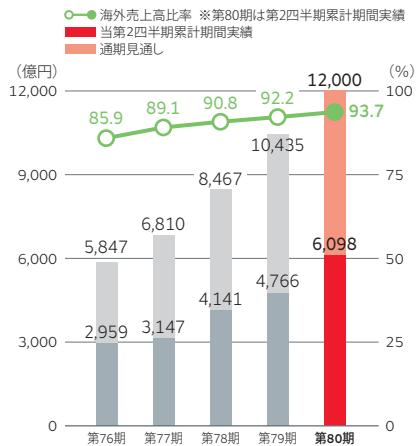




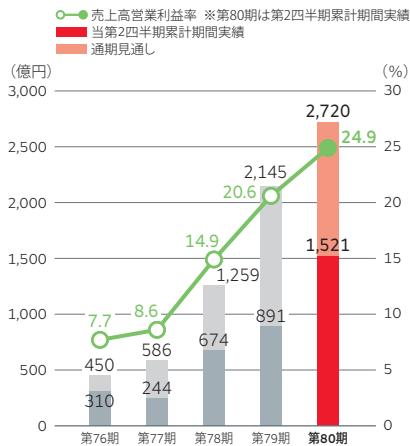
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 第80期(平成28年3月期)の中間報告書をお届けするにあたり、当社グループの業績概要についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **村田 恒夫**

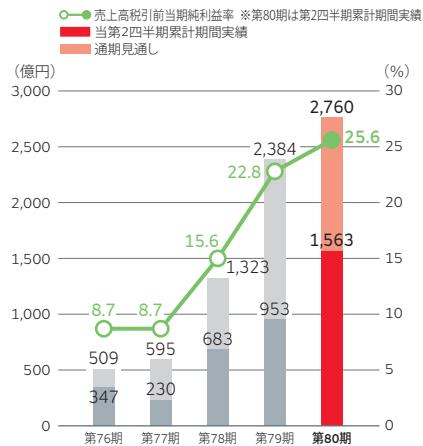
売上高 / 海外売上高比率



営業利益 / 売上高営業利益率



税引前当期純利益 / 売上高税引前当期純利益率



▶ 第2四半期累計期間の業績について

当第2四半期累計期間の世界経済情勢は、中国が成長ペースの鈍化を鮮明化させておりますが、米国は資源価格の下落を背景に依然雇用・内需を中心に堅調さを維持しています。また、緩やかな回復を見せてきた欧州がここに来て不透明感を増してきている状況にあります。

当社が属するエレクトロニクス市場は、スマートフォンの台数成長の伸び率が鈍化しつつも機器の高機能化による1台当たりの部品数が増加し、大きな伸びを見せた昨年に引き続き好調を維持しました。また自動車関連は安全確保や利便性確保に向けて電装品の搭載数が増加傾向にあり、台数増加に併せて電子部品需要の増加傾向が続きました。

このような市場環境のもと、当社は伸びる市場に注力

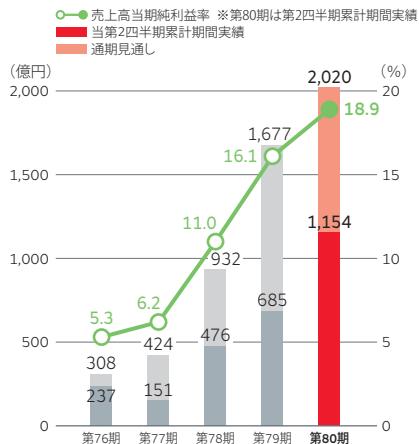
し、当第2四半期累計期間の売上高は、円安効果（前年同期比18円75銭の円安）もあり、前年同期比28.0%増の609,809百万円となりました。

利益につきましては、生産能力の増強に伴う固定費の増加、製品価格の値下がりといった減益要因はありましたが、高付加価値の新製品の投入及び操業度益やコストダウン、円安効果により、営業利益は前年同期比70.7%増の152,140百万円、税引前四半期純利益は同64.0%増の156,313百万円、当社株主に帰属する四半期純利益は同68.4%増の115,366百万円と、大幅な増益となりました。

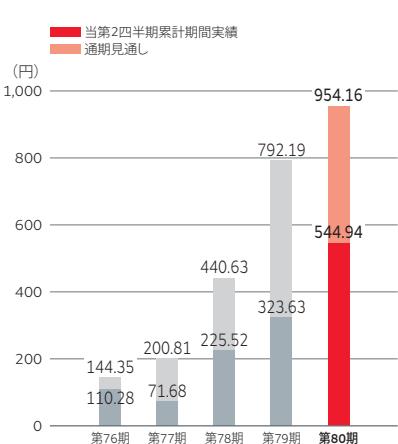
▶ 通期業績の見通しについて

当社を取り巻く市場環境は、スマートフォン及びLTE化の更なる進展や自動車の電装化の進展が1台当たりの部

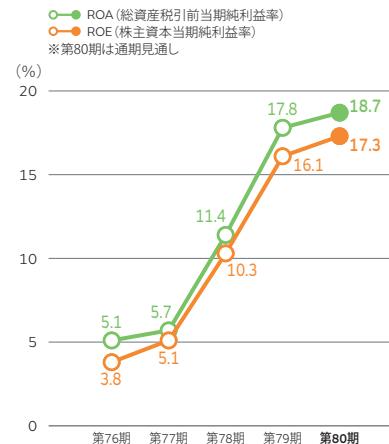
当期純利益 / 売上高当期純利益率



1株当たり当期純利益



ROA / ROE



*本頁のグラフにおける「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」です。

品数の増加に寄与し、電子部品の需要は好調に推移しております。現時点での為替水準と部品需要見通しから、平成28年3月期の業績見通しについて、売上高を1,200,000百万円（前年度比15.0%増）、営業利益を272,000百万円（同26.8%増）、税引前当期純利益を276,000百万円（同15.8%増）、当社株主に帰属する当期純利益を202,000百万円（同20.4%増）と上方修正いたしました。

▶ 株主還元策について

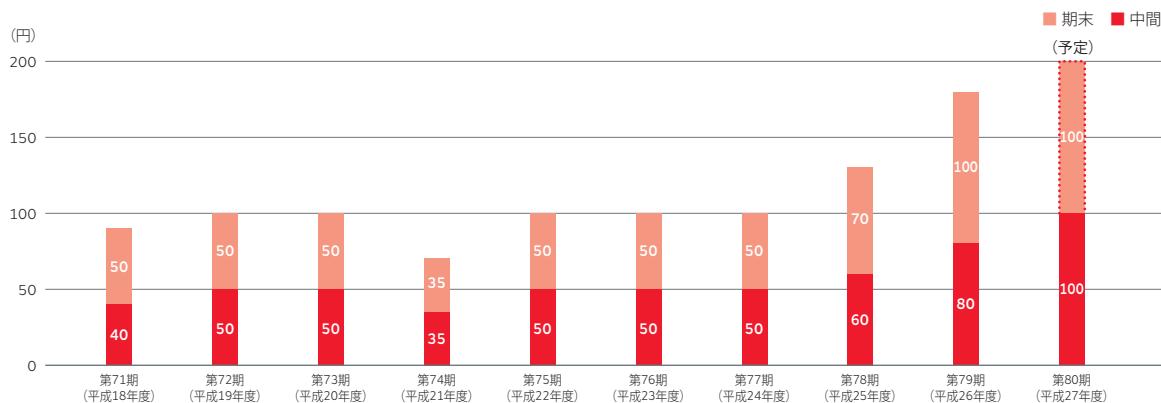
株主の皆様への利益還元策としては、配当による成果の配分を優先的に考え、長期的な企業価値の拡大と企業体質の強化を図りながら、1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めることを基本方針としております。この方針に基づき、連結ペー

スでの業績と配当性向並びに内部留保の蓄積などを総合的に勘案したうえで、配当による利益還元を行っております。

また、当社は自己株式の取得につきましても株主の皆様への利益還元策としてとらえ資本効率の改善を目的に適宜実施しており、平成14年度以降167,857百万円、33,272千株の自己株式を取得し、19,000千株を消却しました。

中間配当金は、当上半期の業績だけではなく内部留保の蓄積を鑑み、期初に予定していたとおり、1株当たり100円とさせていただきます。また、当期末配当金につきましても、中間配当金と同様の1株当たり100円とし、年間配当金は200円を予定しております。なお、この1株当たり配当金は、10月末日時点の事業環境及び通期の業績見通しによるものです。

1株当たり配当金の推移





スマートグラスコンセプトモデル「Cool Design Smart Glass」 ～鯖江市との共同で試作 ファッション性・かけ心地・使いやすさを追求～

当社は、ウェアラブル機器のHMI*¹向けにスイッチモジュール(micro PS)*²の開発を進めています。この度、福井県鯖江市との共同プロジェクト*³により、このスイッチモジュールを搭載したスマートグラスのコンセプトモデル「Cool Design Smart Glass」を試作いたしました。

近年、ハンズフリーで使用することができ、かつAR(Augmented Reality: 拡張現実)機能も搭載可能なスマートグラスに対する期待が高まっています。「Cool Design Smart Glass」は、眼鏡産地である鯖江ならではの眼鏡デザイン技術・製造技術により眼鏡本来のファッション性とかけ心地を実現するとともに、回転・プッシュスイッチ機能を世界最小サイズにパッケージングしたスイッチモジュール(micro PS)を搭載することにより、レンズ部のARディスプレイやスマートフォンなどの接続機器をリモコンなしで簡単に操作することができます。

なお、当コンセプトモデルの展示およびデモンストレーションを、今年10月7日(水)～10月10日(土)に幕張メッセで開催された「CEATEC JAPAN 2015」にて行いました。



スマートグラスのコンセプトモデル
「Cool Design Smart Glass」(非売品)

*1 HMI (Human Machine Interface) :

人間が機械を操作したり、機械が現在の状態や結果を人間に知らせたりする手段やそのための道具のこと。

*2 スイッチモジュール (micro PS) :

当社開発中の回転・プッシュスイッチを世界最小サイズ(3.2×3.4×2.3mm)にパッケージングした製品。HMI向けに2016年量産予定。

*3 鯖江市との共同プロジェクト :

当社および鯖江市のほか、株式会社シャルマン(鯖江市)、株式会社ポストクラブ(鯖江市)、SAPジャパン株式会社、株式会社サイトフォーディーが参画。

2015年ミラノ国際博覧会日本館にムラタセイサク君[®]が登場!

当社は2015年ミラノ国際博覧会の日本館に協賛し、会期中(5月1日～10月31日)の全日程で当社の自転車型ロボット、ムラタセイサク君[®]が日本館の展示シーンⅢ「Innovation」に登場いたしました。

同博覧会の開催テーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを」、日本館の出展テーマは「Harmonious Diversity -共存する多様性-」であり、日本の食文化や地球規模の食糧問題を解決するための技術などが紹介されました。

ムラタセイサク君[®]は、ご来場者を世界旅行へとお連れするアニメーションの主人公として登場し、地球規模の食糧問題およびその解決に向けた日本の先端技術や取り組みについてご紹介いたしました。また、ステージ上では実際のムラタセイサク君[®]によるデモンストレーションが毎日行われました。



2015年ミラノ国際博覧会の日本館にてデモンストレーションを行うムラタセイサク君[®]

関連リンク

～2015年ミラノ国際博覧会について : <http://www.expo2015.org/en>

～2015年ミラノ国際博覧会日本館について : <http://expo2015.jp/>

～ムラタセイサク君[®]について : <http://www.murata.com/ja-jp/about/mboyimgirl/mboy>

コンポーネント

売上高

385,154 百万円

前年同期比

22.1% 増



コンデンサ

主な製品：積層セラミックコンデンサなど

当第2四半期累計期間は、主力の積層セラミックコンデンサが、前年に引き続きスマートフォンの好調、並びに電装化の進展により需要が増加しているカーエレクトロニクスに支えられ、大幅な伸びを示しました。

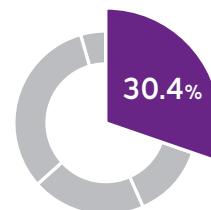
その結果、コンデンサの売上高は、前年同期に比べ20.5%増の184,596百万円となりました。

売上高

184,596 百万円

前年同期比

31,457 百万円



圧電製品

主な製品：表面波フィルタ、発振子、圧電センサ、セラミックフィルタなど

当第2四半期累計期間は、表面波フィルタが、中華圏を中心にマルチバンド対応のスマートフォンの普及が加速していることにより大きく伸長しました。

その結果、圧電製品の売上高は、前年同期に比べ35.3%増の80,117百万円となりました。

売上高

80,117 百万円

前年同期比

20,919 百万円



その他コンポーネント

主な製品：コイル、EMI除去フィルタ、コネクタ、センサ、サーミスタなど

当第2四半期累計期間は、コイルが携帯電話向けを中心に大きく増加した他、カーエレクトロニクス向けでも大きな伸びを見せました。コネクタは、携帯電話向けで順調に増加しました。

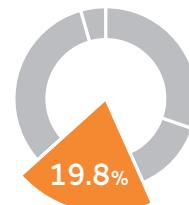
その結果、その他コンポーネントの売上高は、前年同期に比べ16.8%増の120,441百万円となりました。

売上高

120,441 百万円

前年同期比

17,346 百万円





モジュール

売上高

222,690 百万円

前年同期比

39.7% 増



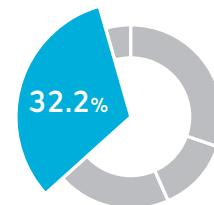
通信モジュール

主な製品：近距離無線通信モジュール、通信機器用モジュール、多層モジュール、多層デバイスなど

当第2四半期累計期間は、近距離無線通信モジュール及び通信機器用モジュールが、スマートフォン向けを中心に大きく伸ばしました。

その結果、通信モジュールの売上高は、前年同期に比べ47.9%増の195,965百万円となりました。

売上高 前年同期比
195,965 百万円 **63,423** 百万円



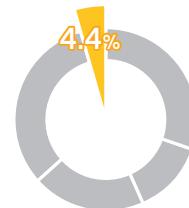
電源他モジュール

主な製品：電源など

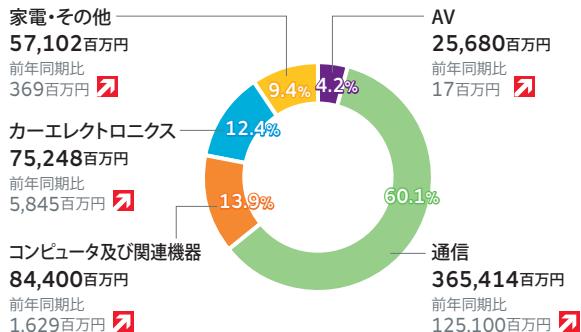
当第2四半期累計期間は、電源が、カーエレクトロニクス向けで減少し前年同期を下回りました。

その結果、電源他モジュールの売上高は、前年同期に比べ0.7%減の26,725百万円となりました。

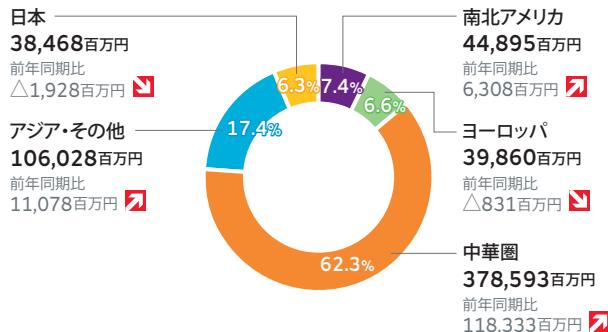
売上高 前年同期比
26,725 百万円 Δ 185 百万円



用途別売上高 (当社推計値に基づいております)



地域別売上高



連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

▶ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度末 (平成27年3月31日現在)		当第2四半期連結会計期間末 (平成27年9月30日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比
(資産の部)	(1,431,303)	100.0	(1,519,062)	100.0
流動資産	815,849	57.0	857,838	56.5
1 現金及び預金	139,685		116,803	
短期投資	146,413		147,888	
有価証券	72,199		52,713	
受取手形	649		518	
2 売掛金	233,024		263,107	
貸倒引当金	△1,010		△1,034	
たな卸資産	186,299		219,856	
繰延税金資産	28,296		30,955	
前払費用及びその他の流動資産	10,294		27,032	
有形固定資産	385,986	27.0	431,863	28.4
土地	50,170		49,735	
建物及び構築物	325,479		332,855	
機械装置及び工具器具備品	788,743		844,605	
建設仮勘定	30,510		38,447	
減価償却累計額	△808,916		△833,779	
投資及びその他の資産	229,468	16.0	229,361	15.1
投資	94,877		96,321	
無形資産	59,915		56,842	
のれん	56,102		56,298	
繰延税金資産	7,625		5,631	
その他の固定資産	10,949		14,269	
合計	1,431,303	100.0	1,519,062	100.0

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度末 (平成27年3月31日現在)		当第2四半期連結会計期間末 (平成27年9月30日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比
(負債の部)	(292,372)	(20.4)	(292,787)	(19.3)
流動負債	198,534	13.8	208,929	13.8
短期借入金	11,154		6,159	
買掛金	54,535		71,175	
未払給与及び賞与	36,256		37,678	
未払税金	49,960		37,041	
未払費用及びその他の流動負債	46,629		56,876	
固定負債	93,838	6.6	83,858	5.5
長期債務	9,652		4,654	
退職給付引当金	68,679		65,092	
繰延税金負債	13,957		12,666	
その他の固定負債	1,550		1,446	
(資本の部)	(1,138,931)	(79.6)	(1,226,275)	(80.7)
株主資本	1,123,090	78.5	1,210,480	79.7
資本金	69,377		69,377	
資本剰余金	103,864		103,865	
利益剰余金	970,374		1,064,570	
その他の包括利益累計額	39,793		33,012	
有価証券未実現損益	7,114		4,487	
年金負債調整勘定	△5,511		△4,633	
為替換算調整勘定	38,190		33,158	
自己株式(取得原価)	△60,318		△60,344	
非支配持分	15,841	1.1	15,795	1.0
合計	1,431,303	100.0	1,519,062	100.0

POINT 前連結会計年度末からの主な増減要因

1 「現金及び預金」「短期投資」(△21,407百万円)の減少主に需要の増加による一時的な運転資金の変動に対応したこと、及び設備投資が増加したことによるものです。

2 「売掛金」(30,083百万円)、「たな卸資産」(33,557百万円)の増加主に需要の増加により、売上高・生産高が増加したことによるものです。

▶ 連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前第2四半期連結累計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)	
	金 額	百分比	金 額	百分比
売 上 高	476,585	100.0	609,809	100.0
売 上 原 価	294,705	61.8	348,094	57.1
販売費及び一般管理費	63,150	13.3	71,576	11.8
研 究 開 発 費	29,580	6.2	37,999	6.2
営 業 利 益	89,150	18.7	152,140	24.9
受取利息及び配当金	1,919	0.4	1,356	0.2
支 払 利 息	△211	△0.0	△93	△0.0
為 替 差 損 益	4,441	0.9	△359	△0.0
そ の 他 (純 額)	26	0.0	3,269	0.5
税引前四半期純利益	95,325	20.0	156,313	25.6
法 人 税 等	26,931	5.6	40,520	6.6
(法人税、住民税及び事業税)	(30,731)		(42,120)	
(法人税等調整額)	(△3,800)		(△1,600)	
四 半 期 純 利 益	68,394	14.4	115,793	19.0
非支配持分帰属損益	△121	△0.0	427	0.1
当社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	68,515	14.4	115,366	18.9

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

期 別 項 目	前第2四半期連結累計期間 (平成26年4月1日～平成26年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)	
	金 額	百分比	金 額	百分比
営業活動による キャッシュ・フロー	85,917		86,834	
投資活動による キャッシュ・フロー	27,959		△94,500	
財務活動による キャッシュ・フロー	△32,156		△34,187	
換算レート変動による影響	△2,618		3,151	
現金及び現金同等物の 増 加 (△ 減 少) 額	79,102		△38,702	
現金及び現金同等物の 期 首 残 高	118,884		212,936	
現金及び現金同等物の 四 半 期 末 残 高	197,986		174,234	

POINT

好調に推移したスマートフォンを中心とした通信分野や、自動車の生産台数増加や電装化の進展などによって伸びる市場に注力。

1 売上高 609,809百万円(前年同期比28.0%増)

2 利益

営業利益 152,140百万円(前年同期比70.7%増)

税引前四半期純利益 156,313百万円(前年同期比64.0%増)

当社株主に帰属する四半期純利益 115,366百万円

(前年同期比68.4%増)

ー増益要因:高付加価値の新製品の投入、操業度益、コストダウン、円安効果

ー減益要因:生産能力の増強に伴う固定費の増加、製品価格の値下がり

平成27年9月30日現在

□ 株式事項

発行済株式総数 225,263千株
株主数 53,114名

□ 株式上場

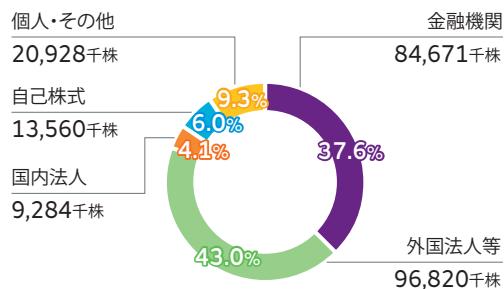
[国内] 東京証券取引所 市場第一部
[海外] シンガポール証券取引所

□ 大株主の状況

順位	株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1	JP MORGAN CHASE BANK 380055	18,566	8.8
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,604	5.0
3	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	8,917	4.2
4	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,511	3.5
5	日本生命保険相互会社	7,361	3.5
6	株式会社京都銀行	5,260	2.5
7	明治安田生命保険相互会社	5,240	2.5
8	株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
9	THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	3,465	1.6
10	CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	3,054	1.4

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(13,560千株)を除いて計算しております。

□ 所有者別株式分布状況



□ 商号 株式会社 村田製作所
Murata Manufacturing Co., Ltd.

□ 設立 昭和25年12月23日(創業 昭和19年10月)

□ 資本金 69,377百万円

□ 従業員数 連結 53,669名 個別 7,544名

□ 所在地 本社 〒617-8555
京都府長岡京市東神足1丁目10番1号
電話 075-951-9111

支社 東京支社・東京都渋谷区

事業所 長岡事業所・京都府長岡京市
八日市事業所・滋賀県東近江市
野洲事業所・滋賀県野洲市
横浜事業所・横浜市緑区

営業所 仙台/水戸/さいたま/東京/立川/浜松/
名古屋/安曇野/京都/神戸/岡山/福岡

□ 国内関係会社 31社

□ 海外関係会社 72社

□ 取締役

代表取締役社長 村田 恒夫
代表取締役副社長 藤田 能孝
取締役 井上 亨
取締役 中島 規巨
取締役 岩坪 浩
取締役 竹村 善人
取締役 石野 聡
取締役 吉原 寛章(社外取締役)
取締役 重松 崇(社外取締役)

□ 執行役員

常務執行役員 井上 亨
常務執行役員 中島 規巨
常務執行役員 小島 祐一
常務執行役員 藺田 聡
常務執行役員 岩坪 浩
上席執行役員 竹村 善人
上席執行役員 石野 聡
執行役員 鴻池 健弘
執行役員 丸山 英毅
執行役員 多田 裕
執行役員 石谷 昌弘
執行役員 水野 健一
フェロー 酒井 範夫
執行役員 宮本 隆二
執行役員 鱈谷 佳和

□ 監査役

常勤監査役 田中 純一
常勤監査役 岩井 清
監査役 豊田 正和(社外監査役)
監査役 中西 倭夫(社外監査役)
監査役 西川 和人(社外監査役)

株主メモ

□ 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

□ 剰余金の配当基準日

中間配当金 9月30日

期末配当金 3月31日

□ 単元株式数

100株

□ 公告の方法

当社ウェブサイトに掲載いたします。

(<http://www.murata.com/ja-jp/>)

ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

□ 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付／電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324 (通話料無料)
旧東京電波株式会社の株式に係る特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ※1

□ お取扱窓口について

お手続き内容		お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ・住所・名義の変更 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・配当金受取り方法のご指定 ・相続に伴うお手続き 他 	証券会社等に口座をお持ちの場合 証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合) ※2	お取引のある証券会社等 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ※3 または 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ※1
<ul style="list-style-type: none"> ・未払い配当金のお支払い 	すべての株主様	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店および全国各支店

※1 当社と東京電波株式会社の株式交換の効力発生日の前日である平成25年7月31日において、東京電波株式会社の株式を特別口座でお持ちであった株主様につきましては、引き続き三菱UFJ信託銀行株式会社が特別口座の口座管理機関となっております。

※2 特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社等にお取引の口座を開設し、株式の振替手続きが必要となります。

※3 お取扱店は次のとおりです。

みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店

みずほ証券株式会社 本店および全国各支店

当社では、単元未満株式の買取・買増に関する手数料を無料としておりますので、ぜひご利用ください。
 (お取引証券会社等で株式を管理している場合は、お取引証券会社等で別途手数料のかかる場合がございます。)



表紙写真 「CEATEC JAPAN 2015」にてフォーメーションダンスを披露する村田製作所チアリーディング部

Innovator in Electronics、ムラタセイサク君、ムラタセイコちゃんは、株式会社村田製作所の登録商標または商標です。
CEATEC JAPANは、一般社団法人 電子情報技術産業協会の登録商標または商標です。

